

# 食品安全情報（微生物） No.21 / 2017（2017.10.11）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

---

## 目次

### 【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. サイクロスポラ (*Cyclospora cayetanensis*) 感染報告患者数の増加（米国、2017年夏）
2. ペット店の子犬に関連して複数州にわたり発生している多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイク（2017年10月3日付更新情報）

### 【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF: Rapid Alert System for Food and Feed）

### 【[Eurosurveillance](#)】

1. NEWC（オランダ早期警報委員会）の国際的情報源として欧州疾病予防管理センター円卓会議報告書（ECDC Round Table (RT) Report）および ProMED-mail が最も有効

### 【[英国食品基準庁（UK FSA）](#)】

1. 市販生鮮鶏肉のカンピロバクター汚染調査の一部変更

### 【[オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）](#)】

1. オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）感染症管理センター（CIb）の2016～2021年の戦略

### 【[ProMed mail](#)】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報
-

## 【各国政府機関等】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)  
<http://www.cdc.gov/>

1. サイクロスポラ (*Cyclospora cayetanensis*) 感染報告患者数の増加 (米国、2017 年夏)  
Increase in Reported cases of *Cyclospora cayetanensis* Infection, United States, Summer 2017  
August 7, 2017  
<https://emergency.cdc.gov/han/han00405.asp>

### 概要

米国疾病予防管理センター (US CDC)、州・地域の保健当局、および米国食品医薬品局 (US FDA) は、サイクロスポラ症報告患者数の増加について調査している。今回の HAN Advisory (Health Alert Network Advisory: 健康危害情報ネットワークを介した推奨) の目的は、サイクロスポラ症報告患者数の増加を公衆衛生当局および医療機関に通知し、医療従事者にガイダンスを示すことである。

医療従事者は、下痢症の長期間の持続または寛解・再発が見られる患者について、サイクロスポラ症の診断を検討すべきである。米国の大多数の検査機関では、便の寄生虫検査が行われる場合でも、通常、サイクロスポラの検査は行われない。医療従事者は、寄生虫・寄生虫卵 (O&P) 検査、分子生物学的検査、または胃腸病原体パネル検査のいずれによる場合でも、対象としてサイクロスポラを指定した検査を依頼しなければならない。米国ではサイクロスポラ症は届出義務疾患であるため、医療従事者は疑いおよび確定患者について公衆衛生当局に報告する義務がある。

### 背景

発症日が 2017 年 5 月 1 日以降の国内感染サイクロスポラ症患者が 8 月 2 日までに CDC に計 206 人報告されている。これらの患者を報告した州は 27 に及ぶが、ほとんどの州で患者数は比較的少数である。18 人が入院したが、死亡者は報告されていない。現時点では具体的な原因食品の特定に至っておらず、可能性のある感染源を特定するための調査が続けられている。異なる州の患者間の関連の有無、および共通の原因食品の存在についてはまだわかっていない。

2017 年の報告患者数 (206 人) は、2016 年の同時期までの報告患者数よりも多い。2016 年は、発症日が 2016 年 5 月 1 日以降の国内感染サイクロスポラ症患者が 2016 年 8 月 3 日までに計 88 人報告された。

### 医療従事者に対する推奨事項

- ・ 下痢症の長期間の持続または寛解・再発が見られる患者についてはサイクロスポラ症の診断を検討すべきである。
- ・ 必要に応じ、O&P 検査、分子生物学的検査、または胃腸病原体パネル検査のいずれによる場合でも、対象としてサイクロスポラを指定した検査を依頼すべきである。重度の下痢が見られる患者においてもサイクロスポラのオーシスト排出は間欠的かつ低レベルである可能性があるため、便検体は複数必要である。
- ・ サイクロスポラ感染患者が発生した場合はこれを地域の保健当局に報告する。報告や検体提出について支援が必要な場合は地域の保健当局に相談すること。

## 2. ペット店の子犬に関連して複数州にわたり発生している多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイク (2017年10月3日付更新情報)

Multistate Outbreak of Multidrug-Resistant *Campylobacter* Infections Linked to Contact with Pet Store Puppies

October 3, 2017

<https://www.cdc.gov/campylobacter/outbreaks/puppies-9-17/index.html>

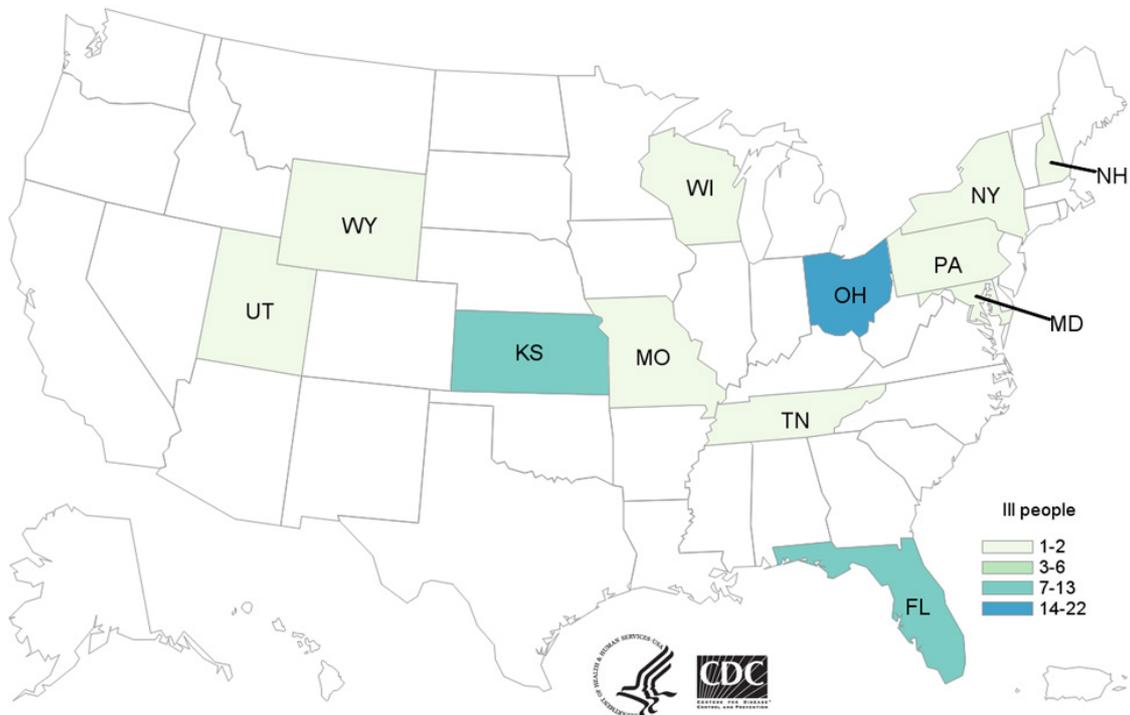
オハイオ州をはじめとする複数州の保健局、米国疾病予防管理センター (US CDC) および米国農務省動植物衛生検査局 (USDA APHIS) は、全国的なペット店チェーンであるペットランド (Petland) で販売された子犬に関連して複数州にわたり発生しているカンピロバクター感染アウトブレイクを調査している。

2017年9月11日以降、新たにアウトブレイク患者16人が報告された。直近の患者の発症日は9月12日である。

10月3日までに、本アウトブレイクに関連して、検査機関確定患者およびカンピロバクター症に一致する症状を呈した患者が12州 (フロリダ、カンザス、メリーランド、ミズーリ、ニューハンプシャー、ニューヨーク、オハイオ、ペンシルバニア、テネシー、ユタ、ウィスコンシン、ワイオミング) から計55人報告されている (図)。詳細は以下の通りである。

- ・ 14人：5州に存在するペットランド店舗の従業員
- ・ 35人：最近ペットランドで子犬を購入またはペットランド店舗を訪問、もしくはペットランドから購入した子犬のいる家庭を訪問またはそのような家庭で生活
- ・ 1人：ペットランド関連の確定患者1人と性的接触
- ・ 4人：様々な由来の子犬に曝露
- ・ 1人：子犬に曝露したかどうか不明

図：子犬関連のカンピロバクター感染アウトブレイクにおける検査機関確定および高度疑い患者数（2017年10月3日までに報告された居住州別患者数、n=55）



患者の年齢範囲は1歳未満～86歳、年齢中央値は23歳で、38人（69%）が女性である。13人（24%）が入院した。死亡者は報告されていない。

疫学調査および検査機関での検査結果は、ペットランドの店舗で販売された子犬が本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示している。ペットランドは、本アウトブレイクに対処するため公衆衛生および動物衛生当局に協力している。

全ゲノムシーケンシング（WGS）解析の結果は、ペットランドから購入した子犬の便検体と複数州の患者の便検体に由来するカンピロバクター分離株が相互に近縁であることを示している。

本アウトブレイクの患者および感染した子犬由来の臨床分離株は、通常推奨される第一選択の抗生物質に耐性であると考えられる。すなわち、本アウトブレイク株の感染患者は、カンピロバクター症の治療に通常処方される経口抗生物質から十分な効果を得られない可能性がある。CDCの全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）チームは、抗生物質耐性関連の遺伝子を探索するため、本アウトブレイク患者7人および感染した子犬6匹の便検体から分離されたカンピロバクター株のWGSデータを解析した。13株すべてが、アジスロマイシン、シプロフロキサシン、クリンダマイシン、エリスロマイシン、ナリジクス酸およびテリスロマイシンに耐性で9株がゲンタマイシンに耐性、12株がテトラサイクリンに耐性であると考えられる。WGSデータによって予測される抗生物質耐性は、カンピロバクターに対する従来の方法による抗生物質耐性試験の結果と概して一致することが

知られている。NARMS は、患者 1 人から分離された 1 株について従来法による抗生物質耐性試験を行った。その結果は、WGS 解析による予測と同じで、アジスロマイシン、シプロフロキサシン、クリンダマイシン、エリスロマイシン、ゲンタマイシン、ナリジクス酸、テリスロマイシンおよびテトラサイクリンに耐性であった。

カンピロバクターは、犬の糞との接触により伝播し得る。通常、ヒト-ヒト感染は起こらないが、感染者のおむつの交換、または感染者との性的接触などの行為によって感染することがある。

由来に関係なく、子犬および成犬はカンピロバクターを保有している可能性がある。感染予防のための助言が以下から入手可能である。

ペット所有者への助言

<https://www.cdc.gov/campylobacter/outbreaks/puppies-9-17/index.html#petowners>

ペット店従業員への助言

<https://www.cdc.gov/campylobacter/outbreaks/puppies-9-17/index.html#petstore>

本調査は継続中である。

---

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

[http://ec.europa.eu/dgs/health\\_food-safety/index\\_en.htm](http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm)

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

[http://ec.europa.eu/food/safety/rasff\\_en](http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en)

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2017年9月25日～10月6日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

スペイン産冷蔵イガイの大腸菌 (330 MPN/100g)、フランス産の生乳ルブロンチーズのサルモネラ、ポーランド産有機ショウガ粉末のサルモネラ (25g 検体陽性)、ポーランド

産乾燥豚耳のサルモネラ (*S. Derby*, 25g 検体陽性)、アルゼンチン産冷凍ノウサギ副産物のブルセラ菌、ポーランド産冷凍鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*, 25g 検体陽性)、インド産粉末ターメリック (オランダ経由) のサルモネラ (*S. Amsterdam* と *S. Senftenberg*, ともに 25g 検体陽性)、スペイン産 fuet (サラミソーセージ) のサルモネラ (25g 検体陽性)、ブラジル産冷凍塩漬け鶏むね肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、イタリア産完全菜食主義者用オーガニックペースト (ガラス瓶詰) の微生物汚染の疑い、ドイツ産殻むきアーモンドのサルモネラ (25g 検体陽性)、ベルギー産冷蔵鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*, 25g 検体陽性)、スペイン産サラミによる食品由来サルモネラ (*S. Typhimurium*) アウトブレイクの疑いなど。

#### 注意喚起情報 (Information for Attention)

ベルギー産冷凍の機械分離鶏肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、エジプト産有機アニス種子のサルモネラ (*S. Kentucky*, 25g 検体陽性)、フランス産冷凍七面鳥 (ホール) のサルモネラ (*S. Enteritidis*, 25g 検体陽性)、ポーランド産冷蔵サーモンマリネのリストeria (*L. monocytogenes*, 460 CFU/g)、英国産冷蔵炙り焼き鶏肉のリストeria (*L. monocytogenes*, 60 CFU/g・50 CFU/g)、ドイツ産の生鮮鶏もも肉のカンピロバクター (700~19,000 CFU/g)、フランス産冷蔵丸鶏・鶏もも肉・鶏むね肉のカンピロバクター (*C. coli*: 4/12 検体陽性、*C. jejuni*: 5/12 検体陽性) など。

#### フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

イタリア産有機菜種搾油粕のサルモネラ (25g 検体陽性)、トルコ産有機ヒヨコ豆 (オランダ経由) の昆虫 (死骸)、菜種ミールのサルモネラ (*S. Kedougou*, 25g 検体陽性)、イタリア産有機ヒマワリ搾油粕のサルモネラ (*S. Mbandaka*, 25g 検体陽性)、オランダ産冷凍生食ペットフードのサルモネラ (25g 検体陽性) と大腸菌 (>30,000 CFU/g)、オランダ産大豆ミールのサルモネラ (*S. Senftenberg*, 50g 検体陽性)、ドイツ産冷蔵牛切り落とし肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、バングラデシュ産冷凍ブラックタイガー (オランダ経由) の細菌 (28,000,000 CFU/g)、ドイツ産大豆搾油粕のサルモネラ (25g 検体陽性)、中国産八角 (英国経由) のカビ、ポーランド産冷凍丸鶏 (オランダ経由) のサルモネラ (*S. Infantis*, 25g 検体陽性)、アルゼンチン産冷凍ノウサギ副産物のブルセラ菌 (7/20 検体陽性)、オランダ産牛切り落とし肉のサルモネラ (*S. Gaminara*, 25g 検体陽性)、オランダ産冷凍生食ペットフードの腸内細菌 (>150,000 CFU/g)、スペイン産冷凍豚肉のサルモネラ (25g 検体陽性) など。

#### 通関拒否通知 (Border Rejection)

ウルグアイ産冷凍牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx1+*, 25g 検体陽性)、アルゼンチン産馬肉骨粉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ガーナ産塩漬け魚の昆虫 (生存)、ウルグアイ産冷蔵牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx2+*, 25g 検体陽性)、中国産殻つきピーナッツの鱗翅目昆

虫の幼虫、ブラジル産冷凍塩漬け鶏むね肉半身のサルモネラ（25g 検体陽性）、インド産皮むきゴマ種子のサルモネラ（25g 検体陽性）、ブラジル産冷凍家禽肉製品のサルモネラ（25g 検体陽性）、ベトナム産カシューナッツの昆虫（死骸・生存）、タイ産冷凍加水鶏肉のサルモネラ（25g 検体陽性）、タイ産冷凍塩漬け鶏むね肉のサルモネラ（O:7,8、25g 検体陽性）など。

---

● Eurosurveillance

<http://www.eurosurveillance.org/>

NEWC（オランダ早期警報委員会）の国際的情報源として欧州疾病予防管理センター円卓会議報告書（ECDC Round Table (RT) Report）および ProMED-mail が最も有効

ECDC Round Table Report and ProMed-mail most useful international information sources for the Netherlands Early Warning Committee

Eurosurveillance, Volume 22, Issue 14, 06 April 2017

<http://www.eurosurveillance.org/images/dynamic/EE/V22N14/art22761.pdf>

<http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?ArticleId=22761>

要旨

オランダ早期警報委員会（NEWC : The Netherlands Early Warning Committee）の任務は、オランダ国民の公衆衛生にとって脅威となり得る感染症の発生を探知することである。このような脅威は、評価の後、警報として公衆衛生従事者向けに発表される。国外由来の脅威を探知するため、NEWC は、疾患アウトブレイクの発生を報告している 10 種類の情報源のスクリーニングを毎週行っている。できるだけ多くの脅威の適時の発表に必要な情報源を特定するため、2013 年 1 月 31 日～2014 年 1 月 30 日に NEWC が発表した国際的な脅威の警報計 178 報の後ろ向き解析を行った。また、NEWC のコーディネーター 4 人に情報源の精査に必要な時間について質問をした。当該の脅威が報告された情報源および日付を調査したところ、欧州疾病予防管理センターの円卓会議報告書（ECDC Round Table (RT) Report、以下 ECDC RT Report）および ProMED-mail が 178 件の脅威のうちそれぞれ 140 件（79%）と 121 件（68%）を報告しており、両者が最も多くの脅威を適時に報告した情報源であった。この両者を合わせると、178 件の脅威のうち 169 件（95%）を適時に報告していた。これらにその他の情報源のいずれかを加えると脅威の報告数は若干増えたが、他方、精査に必要な時間が大幅に増加した。情報源を ECDC RT Report および ProMED-mail に限った場合、重要と考えられる 3 件（2%）の脅威について適時の報告がなされなかったと推定された。国外からの脅威を特定するためにこの 2 つの情報源のみ

を使用しても、感度の高い早期警報システムが維持されると結論された。

## 結果

表 1 には、NEWC が発表した脅威 (178 件) のうち、NEWC が使用した国際的情報源のそれぞれがその何%を報告したか、および各情報源による報告と NEWC による発表との間隔 (日数) が示されている。

表 1 : NEWC が発表した脅威全 178 件のうち、NEWC が使用した 10 種類の国際的情報源のそれぞれが報告した件数 (%)、および各情報源による報告と NEWC による発表との間の日数 (オランダ、2013 年 1 月～2014 年 1 月)

Information source	Threats reported before NEWC publication			Threats reported after NEWC publication			Reported		Not reported n (%)	
	N	Percentage (%)	Time Interval in days, median (min-max)	N	Percentage (%)	Time Interval in days, median (min-max)	N	Percentage (%)	N	Percentage (%)
ECDC Round Table Reports	140	79	3 (0-129)	4	2	5 (4-53)	144	81	34	19
ProMED-mail	121	68	3 (0-130)	11	6	7 (1-31)	132	74	46	26
WHO Event Information Site (EIS)	45	25	3 (0-361)	12	7	7 (1-61)	57	32	121	68
EPIS for Food- and Waterborne Diseases and Zoonoses (EPIS-FWD)	35	20	7 (0-195)	6	3	13.5 (1-65)	41	23	137	77
WHO Disease Outbreak News (DON)	34	19	3 (0-19)	3	2	5 (1-11)	37	21	141	79
European Early Warning and Response System (EWRS)	32	18	4 (0-367)	7	4	11 (1-160)	39	22	139	78
Eurosurveillance	13	7	7 (7-21)	23	13	49 (7-231)	36	20	142	80
Emerging Infections (EI) Summary	11	6	6 (1-97)	66	37	17 (1-85)	77	43	101	57
Morbidity and Mortality Weekly Report (MMWR)	2	1	9.5 (6-13)	9	5	25 (4-127)	11	6	167	94
WHO Weekly Epidemiological Records (WER)	1	1	NC	4	2	106 (8-204)	5	3	173	97

ECDC : European Centre for Disease Prevention and Control (欧州疾病予防管理センター)、EPIS : Epidemic Intelligence Information System (欧州疫学情報共有システム)、NC : 算出せず、NEWC : The Netherlands Early Warning Committee (オランダ早期警報委員会)、WHO : World Health Organization (世界保健機関)

NEWC が発表したすべての脅威に対し、その適時の報告の比率 (%) が最も高かった上位 3 位までの国際的情報源は、ECDC RT Report (79%)、ProMED-mail (68%)、WHO Event Information Site (25%) であった。逆にこの比率が最も低かった情報源は、WHO の Weekly Epidemiological Records (0.6%) と米国疾病予防管理センター (US CDC) の Morbidity and Mortality Weekly Report (MMWR) (1%) であった。報告の時期に関係なく脅威の報告の有無のみに注目した場合、報告の比率が高かった上位 3 位は ECDC RT Report (81%)、

ProMED-mail (74%)、英国の Emerging Infections (EI) Summary (43%) であった。

表 2 は、NEWC のコーディネーターが情報源の精査に要した平均時間である。10 種類の情報源すべての精査に要する時間は週あたり 230 分であった。必要な時間が最も短かったのは WHO Weekly Epidemiological Records および US CDC MMWR の各 10 分であった。最も長かったのは ECDC RT Report、ProMED-mail および European Early Warning and Response System (EWRS) で、週あたりの平均時間はそれぞれ 40、35 および 30 分であった。

表 2 : NEWC のコーディネーター (n=4) が 10 種類の国際的情報源の精査に必要とした時間 (分/週、オランダ、2013 年 1 月~2014 年 1 月)

International source	Range of time requirement in minutes	Average time requirement in minutes
ECDC Round Table Report	<15-60	40
ProMED-mail	<15-45	35
WHO Event Information Site (EIS)	<15-30	25
EPIS for Food- and Waterborne Diseases and Zoonoses (EPIS-FWD)	<15-30	15
WHO Disease Outbreak News (DON)	<15-30	20
European Early Warning and Response System (EWRS)	<15-40	30
Eurosurveillance	<15-30	25
Emerging Infections (EI) Summary	<15-45	20
Morbidity and Mortality Weekly Report (MMWR)	<15	10
WHO Weekly Epidemiological Records (WER)	<15	10
<b>TOTAL</b>	<b>150-330</b>	<b>230</b>

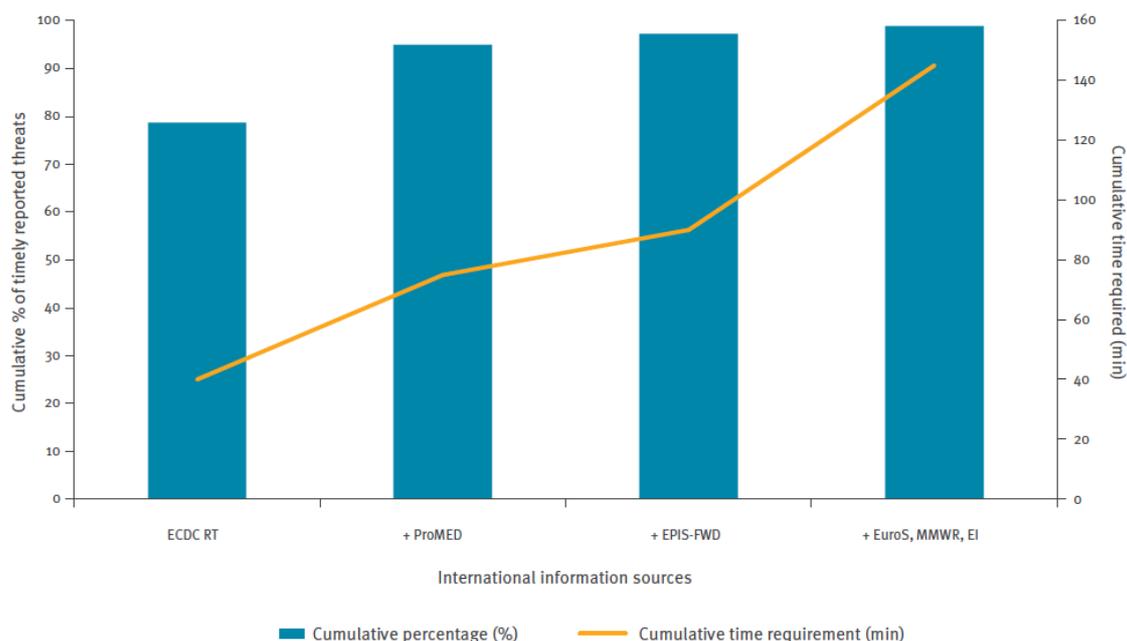
ECDC : European Centre for Disease Prevention and Control (欧州疾病予防管理センター)、EPIS : Epidemic Intelligence Information System (欧州疫学情報共有システム)、NEWC : The Netherlands Early Warning Committee (オランダ早期警報委員会)、WHO : World Health Organization (世界保健機関)

下図は、10 種類の国際的情報源を単独または組み合わせで使用した場合、NEWC が発表した脅威のうち、どの程度の割合の脅威が適時に報告されたか、および、それらの情報源の組み合わせの精査に要した平均時間 (週あたり) を示している。

ECDC RT Report のみの精査によって、適時に報告された脅威 140 件 (79%) の検出が可能で、精査に要した時間は週あたり 40 分であった。ProMED-mail の精査も行うと、適時に報告された脅威がさらに 29 件検出され、NEWC が発表した脅威に対する比率は 95% (n=169) になり、他方、精査に要する週あたりの時間は 35 分増えていたと考えられる。これらに Epidemic Intelligence Information System for Food- and Waterborne Diseases and Zoonoses (EPIS-FWD) の精査も加えると、適時に報告された脅威がさらに 4 件検出されて計 173 件 (97%) になり、精査に要する週あたりの時間は 15 分増えていたと考えられる。以上に Eurosurveillance、MMWR および EI Summary の精査を加えても適時に報告された脅威の検出は 3 件増えただけで、他方、精査に要する時間は週あたり計 55 分増え

ていたと考えられる。ECDC RT Report および ProMED-mail のみを国際的情報源として使用した場合、9 件の脅威を検出できなかったか、または適時の検出ができなかったと考えられるが、他方、このことにより、週あたり 165 分の時間（10 種類の情報源の精査に要する合計時間の 72%）が節約されたことになる。

図： ECDC Round Table Report 単独およびこれに他の情報源を組み合わせた場合、NEWC が発表した脅威のうち適時に報告された脅威の比率（%）、および情報源の精査に要した時間（分/週）（オランダ、2013 年 1 月～2014 年 1 月）



ECDC RT : European Centre for Disease Prevention and Control Round Table Report（欧州疾病予防管理センター円卓会議報告書）、EPIS-FWD : Epidemic Intelligence Information System for Food- and Waterborne Diseases and Zoonoses（食品・水由来疾患および人獣共通感染症のための欧州疫学情報共有システム）、EuroS : Eurosurveillance、MMWR : Morbidity and Mortality Weekly Report、EI : Emerging Infections Summary、NEWC : The Netherlands Early Warning Committee（オランダ早期警報委員会）

ECDC RT Report および ProMED-mail のみを精査した場合に検出できなかったか、または適時の検出ができなかったと考えられる 9 件の脅威のうち、オランダにとって重要な脅威は 3 件であった。残り 6 件の脅威は、それぞれ、欧州の特定の 1 カ国の地域限定的な脅威であったことからオランダにとって重要とは考えられなかった。

ECDC RT Report および ProMED-mail のみ精査した場合、3 件の脅威の検出が遅れたと考えられる。これらのうち 2 件は、最初 EPIS-FWD で報告され、NEWC での発表から 4 日後に ECDC RT Report でも取り上げられた。したがって、ECDC RT Report および

ProMED-mail のみを精査した場合、これら 2 件の脅威は NEWC により 1 週間遅れで発表されたと考えられる。3 件のうち残りの 1 件の脅威は ECDC RT Report、ProMED-mail のみならず、他のいずれの情報源にも適時の報告がなかったが、NEWC は専門家ネットワークを介してこの脅威を探知していた。

---

● 英国食品基準庁 (UK FSA: Food Standards Agency, UK)

<http://www.food.gov.uk/>

市販生鮮鶏肉のカンピロバクター汚染調査の一部変更

Changes to the *Campylobacter* retail survey

21 September 2017

<https://www.food.gov.uk/news-updates/news/2017/16556/changes-to-the-campylobacter-retail-survey>

英国食品基準庁 (UK FSA : Food Standards Agency) は、小売店で販売されている英国産の生鮮鶏肉のカンピロバクター汚染調査を一部変更する予定である。

FSA 主導の本プログラムについて FSA と業界との間で話し合いがもたれ、大規模小売業者 9 社はカンピロバクターの検査を独自に行い、その結果を自社の消費者向けウェブサイトに発表することに同意した。小売業者による検体採取および検査は FSA が確立したプロトコルに従って行われるため、公表された結果は相互比較可能なものになると考えられる。また、FSA は、各検体の検証および業界の平均値算出のために各小売業者の生データにアクセスでき、検査結果に関する見解を公表する権利を保有する。各小売業者はプロトコルに従う旨の誓約書を提出している。この協定を受けて、大手 9 社は FSA の年次調査の対象から除外されるが、消費者はこれらの業者のカンピロバクター汚染低減への取り組み状況を今後も追跡することができる。

鶏肉のカンピロバクター汚染レベル低減において大手の小売業者・製造業者が大きな成果を収めたことから、FSA は今後、改善の余地があると考えられる比較的小規模な業者に取り組みを集中させる予定である。

小規模な供給業者に取り組みを集中させることにより、大規模小売チェーンがあげたような成果が食品供給チェーン全体に拡大されると考えられる。従って、市販鶏肉のカンピロバクター汚染に関する 4 年目の年次調査では、小規模加工業者から鶏肉を仕入れる可能性が高い小規模小売チェーン、個人商店、および市場に出店した露店が焦点となる。

FSA は今後、加工ラインの改善が大規模業者と同じレベルにはまだ達していない小規模加工業者に支援の重点を移していく。これらの業者の市場占有率は低いが、その多くがケ

ータリング業者や地域の小売業者に製品を出荷している。FSA は、すべての英国産鶏肉についてカンピロバクター汚染レベル低減への取り組みを続け、また、大規模小売業者のカンピロバクター汚染対策状況を確認するためその検査結果を注視していく。

(食品安全情報 (微生物) No.14 / 2017 (2017.07.05) UK FSA 記事参照)

---

● オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM)

<http://www.rivm.nl/>

オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM) 感染症管理センター (CIb) の 2016~2021 年の戦略

RIVM Centre for Infectious Disease Control : Strategy 2016-2021

2017-09-08

<http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2017-0104.pdf> (報告書 PDF)

<http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2017-0104.html>

本戦略は、オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM) 感染症管理センター (CIb) の今後について抱負を記載したもので、CIb の今後の活動のまとめではなく、CIb が必要と考える改革について触れている。

オランダでは、予防およびワクチン接種プログラムの活動により、感染症による患者数および死亡者数は比較的少なくなっている。しかし、依然として重要な課題がいくつか残されている。抗生物質耐性の増加は懸念事項の 1 つであり、統合的かつ協調的な行動計画が求められる。また、全国予防接種プログラム (NIP) は成功が保証されているわけではなく、保護者や感染症専門家からの持続的な支援を維持するためには、当該プログラムへの継続的な資金投入だけでなく、感染症専門家や一般住民との情報共有への投資も必要である。

さらに、人獣共通感染症 (動物からヒトに伝播し得る疾患) の脅威についてよく理解することが重要である。売春を行う者や薬物使用者などの高リスク集団で性感染症に罹患した人の数が増加しており、この傾向を阻止する活動の継続が非常に重要である。感染症を適切にコントロールするためには、感染症に関する国内および国際的な傾向と変化を把握することも重要である。

組織上の問題では、感染症に対処する体制をさらに改善することを目的としている。結論として、CIb の国内向けの活動と国際的な活動の良好な相互作用が非常に重要であると言える。

● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報

Cholera, diarrhea & dysentery update 2017 (113) (112) (111) (110) (109) (108) (107) (106) (105) (104)

8, 5, 4, 3, 2, 1 October & 28, 27 September 2017

コレラ (AWD : 急性水様性下痢)

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
イエメン	10/8	22 県	4/27~10/6	(疑い)800,626	2,151
		同上	直前 1 週間	(疑い)33,102	24
		(参考)世界 38 カ国	2016 年	計 132,121	
		(参考)世界 42 カ国	2015 年	計 172,454	
		(参考)ハイチ	2011 年	340,311	
イエメン	10/5	22 県	直前 4 週間	(疑い)119,020 (1 日平均)4,250	
イエメン	10/3	Hajjah 県 (死亡者数最多の県)			約 400
		(参考)ソマリア	2017 年 1 月~		800~
		(参考)コンゴ民主共和国	2017 年 1 月~		500~
		(参考)ハイチ	2010 年~	約 1,000,000	約 10,000
イエメン	9/28	22 県	直前 1 週間の 1 日平均	6,900	
		同上	8/25~9/27 の 1 日平均	5,750	
		(参考)ハイチ	2010 ~ 2015 年	(疑い)754,373	
イエメン	9/26	22 県	9/25~10/1	(疑い)28,277	16
ウガンダ	10/2	カセセ県	9/25~の 1 週 間	80~	3 (10 月 1 日)

スーダン	10/3	西ダルフール州 Murnei 難民キャンプ		70	16 (9/30~10/1)
		紅海州	10/2		(疑い)1
スーダン	9/29	南ダルフール州 Nyala	9/26	6	2
		Kalma 難民キャンプ	9/26~27	2	
		Otash キャンプ		8	2
		西ダルフール州	9/27	2	2
		ハルツーム	直前数日間	(AWD)5	
スーダン	9/23	白ナイル州	9/20~	20	
ナイジェ リア	9/27	ボルノ州	8/16~9/25	(疑い)約 4,000	54
マラウイ	9/29	Chikwawa	直前 6 週間	36	
コンゴ民 主共和国	9/29	20 州	6 月~	24,000~	500~
コンゴ民 主共和国	9/26	20 州	9/9~	17,000	
		20 州	6 月~	24,000~	500
		南キブ州 Minova		1,400~	
		北キブ州 Goma	6/26~9/21	6,287	
			2012 年~		18
		Haut-Lomami 州 Mulongo	8 月~	844	15
		タンガニーカ州	直前 1 週間	84	
		中央コンゴ州 Matadi と Kimpese	2~3 月	計 332	
		同州 Kimpese	上記報告の数 週間後に再発	約 1,700	
ケニア	9/25	Machakos 郡 Daystar 大学		8	

イエメンのコレラ (2017 年の累積患者数)

日付	累積患者数	累積死亡者数
2017/9/8	635,752	2,062
2017/9/17	686,783	2,090

2017/9/20	704,454	2,103
2017/9/24	738,212	2,117
2017/9/27	753,098	2,122
2017/9/29	767,524	2,127
2017/10/2	777,229	2,134
2017/10/4	791,551	2,142
2017/10/6	800,626	2,151

(2017年8月以前のデータについては食品安全情報(微生物) No.19 / 2017 を参照)

イエメンのコレラ (10,000人あたりの罹患率が最も高い5県)

Amran (639)、Al Mahwit (583)、Al Dhale'e (558)、Abyan (456)、Hajjah (347)

下痢 (AWD : 急性水様性下痢、AGE : 急性胃腸炎)

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
バングラデシュ	10/4	チッタゴンのロヒンギヤ難民キャンプ		10,247	
バングラデシュ	10/2	ロヒンギヤ難民キャンプ		400~/日	
フィリピン	10/1	パラワン州 Quezon	9/18 時点	(AGE) 644	
		同上	2013~2016 年の年平均	359	
フィリピン	9/23	パラワン州 Quezon			4
エチオピア	9/15	アムハラ州 ティグライ州 アファール州	直前4カ月	(AWD) 約3,000 約1,200 約300	

赤痢

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
台湾	9/27			2 (インドネシア旅行関連)	
			2017年1月~9/24	120 うち44人が旅行関連 (39人がインドネシア旅行)	

---

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室